

令和7年度

美馬中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的に学習する力を伸ばす授業づくり
- 学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
尾形みゆき	校長：藤山三樹 教頭：佐古晴輝 教務主任：日浦宜子 1学年主任：野口亜希子 2学年主任：森脇博文 3学年主任：福田一敏

校長

藤山 三樹

【小中連携または中高連携における共通の取組】

自主学習ノート展や家庭学習強化週間を設け、授業研究会や小学校への出前授業、小学生への絵本の読み聞かせを行う。

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教職員間の授業参観や報告等、様々な機会を捉えて取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題にまじめに取り組める生徒が多い。 ●長文を速く正確に読み、必要な情報を抜き取ったり、身につけた知識等を関連付けて応用したりすることに課題がある。 ●くり返し復習するなど、基礎・基本の定着に向けた取組みが不十分である。	・学習したことが定着し、既習の内容と新たな学習内容とを関連付けて考え、必要に応じて活用できる。 ・音読に意欲的に取り組み、長文を読み慣れ、各教科において文章を速く正確に読み取ることができる。	・国語科を中心としたあらゆる教科で、様々な文章を読む機会を設けたり、音読させたりする。 ・生徒が課題意識をもって学習に取り組めるように発問を工夫する。 ・教員が相互に授業参観をする機会を設け授業力向上に努める。 ・ICTを活用して、授業だけでなく、家庭学習においても個に応じた復習方法を設定する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○相手の話の意図を考えながら聞いたり、相手に分かりやすく伝えようと工夫して話したりしようとする生徒が多い。 ●課題意識をもって学習に取り組む、自分に必要な情報を取り入れてまとめたり、新たな考えを導き出したりすることに課題がある。	・各授業における課題等について、話し合い活動を通して解決する方法を考えたり、自分の視野を深め広げたりすることができる。 ・目的に応じて、自分の考えを根拠を明確にし、表現を工夫して話したり書いたりすることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・授業ごとに目標を明確にし、生徒に授業の見通しをもたせ、「振り返り」をする機会を設ける。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習規律を守り、落ち着いた態度で授業を受けられる。また、課題をもって家庭学習に取り組める生徒が多い。 ●指示されたことにはまじめに取り組めるが、不得意な学習内容に対しては自発的に質問をしたり、学習方法を工夫し計画的に取り組んだりすることに課題がある。 ●効果的・効率的な学習方法を知らない生徒がいる。	・短期的、長期的な自分の目標を決めて、継続的に努力を積み重ねることができる。 ・わからないところを自覚し、自ら解決しようとする。	・「家庭学習の友」を定期的に記入させ、その内容や成果について適宜アドバイスし、意識が高まるよう声かけをする。 ・小中連携して「家庭学習強化週間」や「自主学習ノート展」を設け、中学生としての学習に対する自覚をもたせ、主体的に学ぼうとする姿勢を育てる。 ・テスト範囲表の活用方法（表を見ても何をどのように勉強するのかわからない生徒にどのような活用方法があるのか）を指導をする。			

令和7年度 学力向上ロードマップ

